講義コード	14D5220000
講義名称	農業経済論Ⅱ <秋>
科目英文名	Agricultural Economics II
代表ナンバリングコード	ECON2595
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大島 一二

授業形態	講義	プレゼンテーション
------	----	-----------

講義・演習概要	<p>近年特に、国の内外でわが国の農業と農業政策をめぐる各種の議論が高まっているが、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。</p> <p>本講義では、農業生産の特質を踏まえた上で、日本と世界各国の農業生産と食料消費の現状と問題点、さらにこれらのあり方を考えるために、最低限必要な基礎的知識・考え方について講義する。</p> <p>農業経済論Ⅱでは、世界と日本の農業・農村・食料について、①戦後の日本農業の展開過程、②世界の農業・農村・食料の現状について、とくにアメリカおよび中国等のアジア諸国の現状とそうした諸国がかかえる問題点について説明する。</p>
学習（到達）目標	<p>本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べる事が出来るようになることである。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	序論、講義の進め方、評価、参考書についての紹介
第2回	戦後日本農業の展開過程（1）－農地改革と農地法体制の成立
第3回	戦後日本農業の展開過程（2）－基本法農政・高度経済成長と日本農業
第4回	戦後日本農業の展開過程（3）－農家兼業の深化・担い手の喪失と高齢化
第5回	戦後日本農業の展開過程（4）－米過剰から全般的過剰へ
第6回	戦後日本農業の展開過程（5）－食料・農業・農村基本計画
第7回	輸入農産物の急増と日本農業（1）－WTO交渉と輸入農産物の激増、食料安全保障、食品安全問題
第8回	輸入農産物の急増と日本農業（2）－農産物輸出
第9回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（1）－アメリカ農業の現状
第10回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（2）－ヨーロッパ農業
第11回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（3）－東南アジア農業と零細農耕
第12回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（4）－中国農業の現状
第13回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（5）－中国の三農問題
第14回	世界の農業・農村・食料の現状と課題（6）－中国農村の労働力移動
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	<p>対面授業を想定し、以下のように配点する。</p> <p>M-Portによるレポート（必修、1回、50点）、課題（5回各10点、50点）を基本とする。</p> <p>さらに講義への出席を促進するため、出席点20点（4回各5点）を加算する。</p> <p>合計120点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。</p> <p>59点以下D、60～69点C、70～79点B、80～89点A、90点～120点S。</p>
---------------	---

参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1)速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店） 2)荻開津典生・鈴木宣弘『農業経済学[第4版]』岩波書店 2015年 3) 生源寺真一『農業経済学』東京大学出版会 1993年 4) 時子山ひろみ・荻開津典生『フードシステムの経済学』医歯薬出版株式会社 1998年 5) 大島一二・山田七絵『朝日緑源, 10年の軌跡 - 中国における日系農業企業の挑戦』農林統計出版、2019年 6) 大島一二編著『日系食品産業における中国内販戦略の転換（日本農業市場学会研究叢書）』筑波書房、2015年
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	新聞を毎日読むよう習慣付けること。
その他備考（担当教員用）	講義メモや講義で用いた資料については、M-Portに掲示する。
備考（管理者用）	（旧：農業経済論）02～10E・CBC生読替

講義コード	15D1220000
講義名称	環境社会学[2] <秋>
科目英文名	Environmental Sociology
代表ナンバリングコード	OSOC2520
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
金 太宇

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	環境問題の本質を理解するには、人間は自然／資源をどのように利用してきたのか、その過程でどのような問題を引き起こし、どのように解決してきたのか／しようとしているのかを、現場から収集した事実関係に即して知ることが必要である。環境社会学は、環境問題の構造を明らかにしてその解決の道筋を探るとともに、地域における人間社会と自然との関係性や人びとの生活を分析してきた。本講義では、環境問題の歴史的教訓に学びつつ、地域社会や人びとが積み上げてきたさまざまな知恵、新しい試みなどを紹介しながら、これからの政策と環境づくりのあり方について考えていきたい。
学習（到達）目標	本講義では、さまざまな環境問題を具体的な事例で学ぶことにより、社会的な環境問題へのアプローチ法を理解できるようにする。また、環境問題に向き合う地域社会や人びとの実践、国際社会の取り組みや政策などに学びながら、環境問題の諸課題について環境社会学の概念や理論を用いて分析、考察する能力を獲得することを旨とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	環境問題の捉え方（1）:自然と人間とのかかわり
第3回	環境問題の捉え方（2）:成長の限界、環境リスク
第4回	環境問題の捉え方（3）:社会的ジレンマ、環境負荷の外部転嫁
第5回	人口圧と環境の劣化：人口論、貧困の連鎖
第6回	公害問題：公害とはなにか、被害構造論
第7回	大規模開発と環境行政:公共の福祉、受益圏・受苦圏論
第8回	科学物質と水質汚染：水は誰のものか、利水・治水・親水
第9回	廃棄物と資源循環（1）：自区内処理の限界、NIMBY
第10回	廃棄物と資源循環（2）：有害廃棄物の越境移動、電子廃棄物のリサイクル
第11回	廃棄物と資源循環（3）中国の環境政策とごみ問題
第12回	エネルギー政策と原子力利用:エネルギー転換の岐路、反原子力運動
第13回	災害と暮らし:復興まちづくりと住民の合意形成
第14回	地球環境問題と環境ガバナンス:気候変動交渉はなぜ難航するのか
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	

成績評価の方法（コメント）	期末レポート（50%）と講義中に課すワークシート（50%）の成績を総合して評価します。
参考文献	<p>船橋晴俊編,2011,『環境社会学』弘文堂.</p> <p>鳥越皓之・帯谷博明編,2017,『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房.</p> <p>足立重和・金菱清編,2019,『環境社会学の考え方：暮らしをみつめる12の視点』ミネルヴァ書房.</p>
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	環境問題に関する報道や記事に注意を払い、自学自習を進めること。指定の参考書及び講義で紹介する文献等を事前・事後学習に活用すること。
キーワード	環境問題、科学技術、リスク社会、社会的ジレンマ、生活者/当事者の立場、サステイナビリティ
備考(管理者用)	(旧：環境社会学) 11～18E・11～15CBCC・10～18SS生読替☆ (旧：社会学特講－環境社会学) 02～09SS生読替

講義コード	15D1310000
講義名称	社会問題論 <秋>
科目英文名	Social Problems in Contemporary Society
代表ナンバリングコード	0SOC1440
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
平野 孝典

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

講義・演習概要	現代日本社会における重大な社会問題の一つに、「健康格差」があります。健康格差とは学歴や職業、収入などの社会経済的要因によって健康状態に差があることをいいます。現在のところ日本は世界的に見てもトップレベルの長寿国ですが、今後は健康格差が拡大し長寿国ではなくなるという予想する研究者もいます。この授業では現代日本社会の健康格差の実態を説明し、健康格差が生じる要因を解説します。 受講にあたっては、講義を円滑に進行するために、受講生の座席を指定する可能性があることを了解してください。
学習（到達）目標	<ol style="list-style-type: none">1 現代日本社会の健康格差の実態を理解し、説明できるようになる。2 健康格差の原因に関する様々な説を理解し、説明できるようになる。3 健康格差の原因を「遺伝」や「甘え」に求めず、社会環境に注目して説明できるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業概要の説明
第2回	現代日本社会における健康格差
第3回	主観的健康感の重要性
第4回	うつは心の風邪か
第5回	社会階層と健康①：社会階層とは何か？
第6回	社会階層と健康②：学歴・職業・収入と健康格差
第7回	仕事と健康
第8回	中間まとめ
第9回	社会関係と健康
第10回	ソーシャル・キャピタルと健康
第11回	所得格差と健康
第12回	ジェンダーと健康
第13回	幼少期の環境と健康
第14回	ポジティブな「生き抜く力」は命を救う
第15回	総まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

<p>成績評価の方法（コメント）</p>	<p>レポート：学期中に2回のミニレポートを課します。 その他：毎回の授業後に提出を求めるコメントカードと、複数回実施する小テストから評価します。 受講態度が著しく悪い場合は、単位を認定しません。</p>
<p>参考文献</p>	<p>川上憲人・橋本英樹・近藤尚己編，2015，『社会と健康』東京大学出版会。 NHKスペシャル取材班，2017，『健康格差 あなたの寿命は社会が決める』講談社現代新書。 リサ・F.パークマン，イチロー・カワチ，M.マリア・グリモール編，高尾総司ほか監訳，2017，『社会疫学（上・下）』大修館書店。 近藤克則，2022，『健康格差社会〔第2版〕』医学書院。</p>
<p>事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）</p>	<p>健康や健康格差に関する様々なニュースに目を通してください。また、この授業は参考文献に依拠しながら進めますので、授業内容に関心を持った方はぜひ手に取ってみてください。</p>
<p>備考(管理者用)</p>	<p>(旧：社会学特講－社会問題論) 02～18SS生読替</p>

講義コード	17F4440000
講義名称	日本語の音声[2] <秋>
科目英文名	Japanese Phonetics
代表ナンバリングコード	LING3500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
村中 淑子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	文字にすれば全く同じ日本語の文であっても、発音を聞くと、外国人学習者である、あるいは自分と異なる地域の出身者である、とわかる場合が多い。語彙や文法ではなく、音声の特徴だけでも、違いがわかるわけである。音声のどこがどう違っているのだろうか。「なんとなく違う」というのではなく、「音声を分析的にとらえる」ための知識を身につけることを目的とする。日本語の具体的な音声について、口の中のどの部分がどう使われているのか、あるいは長さ・高さ・強さがどうなっているのか、などをひとつひとつ自分の口と耳で確認しながら学ぶ。 日本語教員養成課程の科目であることから、日本語教育において音声項目がどのように扱われているかについても紹介する。
学習（到達）目標	(1) 日本語の標準的発音における母音・子音・特殊拍等の音声の性質を理解し、国際音声記号で表記できる。 (2) 拍と音節の定義、母音の無声化の定義を理解し、語における拍数・音節数および母音の無声化の箇所を数えあげることができる。 (3) 日本語のアクセント、イントネーション、ポーズ、リズムの特徴と役割について理解できる。 (4) 日本語教育における音声の扱いについて知識を得る。

講義・演習計画

回	内容
第1回	音声学とは（何を明らかにするのか）。言語音とは。
第2回	日本語の母音。5母音の位置付け。
第3回	日本語の母音。地域差や連母音など。
第4回	日本語の子音。両唇音、歯茎音など。国際音声記号。
第5回	日本語の子音。硬口蓋音、軟口蓋音など。国際音声記号。
第6回	復習（小テスト1）。ここまでの授業内容を振り返る。
第7回	特殊拍。音声と音韻。
第8回	特殊拍。拍と音節とリズム。
第9回	母音の無声化。
第10回	復習（小テスト2）。ここまでの授業内容を振り返る。
第11回	日本語のアクセント1（規則と表記）
第12回	日本語のアクセント2（地域差など）
第13回	イントネーション、プロミネンス、ポーズ。
第14回	日本語教育における「音声」。
第15回	学期末試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	学期末試験60%と小テスト2回各20%とを合計して、評価する。
---------------	---------------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						テキストは指定せず、コピー資料を配布する。

参考文献	国際交流基金日本語国際センター『教師用日本語教育ハンドブック⑥発音改訂版』（凡人社）1990年、文化庁『日本語教育指導参考書1 音声と音声教育』（大蔵省印刷局）1971年、天沼寧・大坪一夫・水谷修『日本語音声学』（くろしお出版）1978年、松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』（アルク）1998年、斉藤純男『日本語音声学入門 改訂版』（三省堂）2006年、福盛 貴弘『基礎からの日本語音声学』（東京堂出版）2010年
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	押さえておくべき項目、覚えるべき記号や用語が多いので、そのつどよく復習しておいてほしい。
キーワード	母音、子音、国際音声記号、特殊拍、アクセント、イントネーション
備考(管理者用)	(旧：日本語の音声A) 18生読替☆(旧：日本語の音声) 08～17生読替

講義コード	17N2030000
講義名称	総合人間学B <秋> ※遠隔授業（同時双方向型）
科目英文名	Study on Humanity B
代表ナンバリングコード	CULT2510
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
梅山 秀幸

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①	実務経験のある教員による授業②
		アフリカの環境問題に関わった講師の授業	共同通信社の記者として戦地で取材

講義・演習概要	20世紀から今世紀にかけて専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれたが、しかし、個別の「学」では今日の人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分に答えることができない。そこで、学際的な、人間に関する新たな総合学が必要とされる。そうした学問的要請に基づいて、この講義は複数の講師によって行われる「インテグレーション」科目として実施される。特に、2020年以降、世界はコロナウィルスに襲われ、数波の感染拡大が続く一方、ウクライナで、そしてガザで戦闘が勃発して、終息しそうもない。このコロナ下の社会、そして戦時下をどう生きていくべきか、またその後の社会をどう構築していくべきなのかも考えたい。
学習（到達）目標	自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育を目指す。ここで人間とは、生物種ヒトとその双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学、技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムは何かという人間学の目標に迫っていききたい。

講義・演習計画

回	内容
第1回	この授業について、評価の仕方について。
第2回	パレスティナ ガザの歴史
第3回	パレスティナ ガザの現在
第4回	ウクライナ戦争 国連安全保障理事会の役割
第5回	日本の女性の地位について
第6回	アフリカの社会
第7回	少数民族の行方 世界と日本
第8回	オーストラリアの先住民
第9回	多民族社会としてのオーストラリア
第10回	アメリカの公民権運動
第11回	中国の若者たち
第12回	クリスマスとは何か
第13回	オーストリアの若者たち
第14回	世界のLGBTQについて
第15回	オランダにおける社会的統合について

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	30%

その他	70%
成績評価の方法（コメント）	毎回授業終了後に200字から400字のコメントを書いて提出してもらいます。それを見て授業の理解度をはかり、点数化することにします。「その他」というのはそれをいいます。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	ゲスト講師が授業の前後に紹介する文献をきちんと読むようにしてください。
備考(管理者用)	(旧：総合人間学) 02～17生読替☆インテグレーション科目☆遠隔授業（同時双方向型）

講義コード	14D2420000
講義名称	統計学総論Ⅱ <秋>
科目英文名	Social Statistics Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON1560
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
吉田 茂一

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① シンクタンク[アジア太平洋研究所]勤務における調査分析の実務経験も反映させた講義内容
------	----	---

講義・演習概要	記述統計(=統計データの整理と記述の方法)について概説し、推測統計(=確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法)の基礎的な考え方について、講義を進めていく。 「統計学総論Ⅰ」と「統計学総論Ⅱ」では、大きな流れはどちらも共通しており、Ⅰで十分に扱えないトピックスをⅡで扱う。
学習(到達)目標	記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについてより深く理解することを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく。「統計(学)的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものであろう。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス (各回の順序は理解度に応じて入れ替えることがある)
第2回	記述統計と推測統計
第3回	算術平均(相加平均)と幾何平均(相乗平均)
第4回	単純平均と加重平均(ウェイト付き平均)
第5回	G P A (グレードポイントアベレージ)
第6回	ちらばりの指標(分散・標準偏差、レンジ等)
第7回	ヒストグラムにおける階級の設定
第8回	確率
第9回	ベイズの定理
第10回	確率変数と確率分布
第11回	密度関数、一様分布と正規分布
第12回	点推定と区間推定、推定と検定
第13回	比率の区間推定
第14回	回帰分析
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法(割合)

「成績評価の方法(コメント)」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	100%

その他	0%
-----	----

成績評価の方法（コメント）	授業内で2.3回程度、Excelを用いて実際に計算を行えるかを確認するレポートを課す。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	金子治平・上藤一郎 編	よくわかる統計学－I 基礎編－(第2版)	学生独自購入	978-4-623-06111-2	ミネルヴァ書房	(¥2600+税)

参考文献	郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ(入門ビジュアルサイエンス)』日本実業出版社(税込 ¥1365) ISBN:978-4534026620
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後 学習 30 時間)	教科書の練習問題等での予習・復習を中心に、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。
備考(管理者用)	(旧：統計学総論) 02～10E・CBCC生読替

講義コード	14D2720000
講義名称	日本近代史Ⅱ <秋>
科目英文名	History of Modern Japan II
代表ナンバリングコード	HIST1410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
島田 克彦

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	「世界史の中の近代日本」というテーマの下、第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る時期の歴史について講義を行います。 ヨーロッパでの第一次大戦勃発は世界史上の画期となりました。「国家総力戦」の思想が広まる時代にあって、人類の英知は「戦争違法化」の潮流を生み出していきます。しかし、帝国主義諸国がみずからの植民地支配を温存したことが世界史に矛盾をもたらし、新しい戦争につながっていきます。 このような世界史の中で、東アジアの一角を占める日本はどのように行動していったのでしょうか。授業では、矛盾を深めていく世界史の中で日本が果たした役割と責任について考えていきます。
学習（到達）目標	二つの大戦を生み出した世界史の中で、日本が果たした役割を理解すること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	近代日本の歩みと戦争 ー開講にあたってー 第1回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。
第2回	第一次世界大戦と「21カ条要求」
第3回	第一次世界大戦期の東アジアにとシベリア干渉戦争
第4回	第一次世界大戦の集結と東アジアの民族運動
第5回	国際連盟とワシントン体制 ー第一次大戦後の世界ー
第6回	「戦争違法化体制」の構築
第7回	中間まとめ
第8回	関東大震災 ー大日本帝国の大災害ー
第9回	近代工業都市大阪の成立と社会変動
第10回	1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争（1） ー満州事変ー
第11回	1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争（2） ー枢軸国陣営の形成ー
第12回	日中戦争の勃発
第13回	第二次世界大戦からアジア太平洋戦争へ
第14回	第二次世界大戦の終結と戦後世界
第15回	全体のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	55%

その他	45%
-----	-----

成績評価の方法（コメント）	<p>成績評価の配分は、毎回の確認・まとめ課題45%、レポート（2回を予定）55%。</p> <p>毎回の確認・まとめ課題は、授業への出席とセットで評価します。</p> <p>レポートは2回とも提出すること。1回の提出がなければ単位を認めません。</p>
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。

参考文献	<p>※講義の中で適宜紹介します。</p> <p>江口圭一『体系日本の歴史14 二つの大戦』小学館、1993年（ライブラリー版）</p> <p>木畑洋一『第二次世界大戦 ー現代世界への転換点』吉川弘文館、2001年（歴史文化ライブラリー）</p> <p>加藤陽子『戦争の日本近現代史』講談社、2002年</p> <p>小林啓治『戦争の日本史21 総力戦とデモクラシー』吉川弘文館、2008年</p> <p>伊香俊哉『戦争の日本史22 満州事変から日中前面戦争へ』吉川弘文館、2007年</p> <p>吉田裕・森茂樹『戦争の日本史23 アジア・太平洋戦争』吉川弘文館、2007年</p> <p>荒井信一『空爆の歴史 ー終わらない大量虐殺』岩波書店、2008年（新書）</p> <p>宮地正人監修『日本近現代史を読む』新日本出版社、2010年</p> <p>山室信一『複合戦争と総力戦の断層ー日本にとっての第一次世界大戦』人文書院、2011年</p> <p>日中韓3国共同歴史編纂委員会『新しい東アジアの近現代史』日本評論社、2012年</p> <p>木畑洋一『20世紀の歴史』岩波書店、2014年（新書）</p> <p>河島真『日本近代の歴史5 戦争とファシズムの時代へ』吉川弘文館、2017年</p>
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	各自作成する講義ノートと、配布される講義レジュメにしたがって復習すること。
備考(管理者用)	(旧：日本近代史) 02～10生読替 (E・CBCC・L・J・文学部生読替)

講義コード	14D3910000
講義名称	ファイナンスⅡ <秋>
科目英文名	Finance Ⅱ
代表ナンバリングコード	FINC2450
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
北野 友士

授業形態	講義	実技	アクティブラーニング
------	----	----	------------

講義・演習概要	<p>ファイナンスⅠでは、家計による意思決定を念頭において、ファイナンス理論の基礎を学びました。しかしながら、家計として何かの意思決定を行う際には、実際に選択可能な金融商品はどれか、法的な規制はどうか、社会保険による保障はどの程度か、など現実の制度的な要因を無視することはできません。</p> <p>ファイナンスⅡでは、実際に家計の金融上の意思決定（パーソナル・ファイナンシャル・プランニング）を行う上で必要な知識を学びます。また金融機関のみならず、さまざまな分野で評価されるFP技能士の取得に必要な知識を得られます。</p>
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソナル・ファイナンシャル・プランニングの実行に必要な知識を得る。 ・学習で得た知識を活かして、提案書を作成することで、実践的な能力を高める。 ・FP（ファイナンシャル・プランナー）になれる力を身につける。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ファイナンシャル・プランニング概論
第2回	ライフプランニングと資金計画①ライフプランニングと社会保険
第3回	ライフプランニングと資金計画②年金制度の全体像
第4回	リスク管理①保険制度と生命保険
第5回	リスク管理②損害保険および第三分野の保険
第6回	金融資産運用①金融経済の基礎知識
第7回	金融資産運用②金融商品に関する制度
第8回	タックスプランニング①税制と所得税
第9回	タックスプランニング②個人に関する税制
第10回	不動産①不動産に関する基礎知識
第11回	不動産②不動産に関する法令および税制
第12回	相続・事業承継①相続の基礎知識
第13回	相続・事業承継②贈与税および事業承継
第14回	相談業務（実技）の内容と提案書の作り方
第15回	ファイナンスⅡのまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	10%
その他	90%

成績評価の方法（コメント）

・小テスト：90%（web上で計6回（FPの6分野の各終了時）実施）
・期末テスト：10%（提案書作りに関する期末テスト）
※成績評価の方法については、本科目の授業方法が対面授業となるか遠隔授業となるかを問わず、上記のとおりとします。

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	株式会社マネースマート	FP技能士2級・AFP 最速合格ブック	大学オンライン販売		成美堂出版	毎年7月頃に版が変わるためその時点での最新版を購入してください。

参考文献	貝塚啓明・吉野直行・伊藤宏一（編）（2013）『実学としてのパーソナルファイナンス』中央経済社。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	履修前にファイナンスⅠの内容を確認・復習したうえで、各回の事前学習としてテキストの該当箇所を一読してください。また事後は授業内容とテキストの該当箇所を確認・復習したうえで、問題演習に取り組んでください。そしてぜひFP技能検定に挑戦してみてください。
その他備考（担当教員用）	対面授業となる場合、私語は周りに対する迷惑行為であり、感染症対策の観点からも厳しく対処します。 遠隔授業となる場合、通信環境の不具合による提出遅れは社会に出たら言い訳になりませんので、必ず余裕をもって取り組むようにしてください。
キーワード	ファイナンシャル・プランニング（FP）、パーソナルファイナンス、金融リテラシー
備考(管理者用)	（旧：経済学特講－ファイナンスⅡ）02～10E・CBCC生読替

講義コード	1560230000
講義名称	国際政治史B <秋>
科目英文名	History of International Politics B
代表ナンバリングコード	POLS2420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
塚田 鉄也

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	国際政治は、国内政治とは少し異なった、独特の仕組みを有しています。本講義では、第一次世界大戦以降の現代国際政治史上の主要な出来事を学びながら、近代に形成された国際政治の仕組みがどのように持続・変化してきたかを考察します。
学習（到達）目標	①現代国際政治史上の主要な出来事について理解し、説明できる ②国際政治の仕組みがどのように持続・変化してきたかを理解し、説明できる

講義・演習計画

回	内容
第1回	現代国際政治史を学ぶ意義
第2回	第一次世界大戦までの国際政治
第3回	パリ講和会議
第4回	1920年代の国際関係
第5回	1930年代の国際関係
第6回	第二次世界大戦
第7回	戦後秩序の模索
第8回	冷戦時代①：起源
第9回	冷戦時代②：展開
第10回	冷戦時代③：終結
第11回	アメリカと戦後日本
第12回	ヨーロッパ統合の展開
第13回	脱植民地化の展開
第14回	冷戦後の国際関係
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	各回の内容について課される確認テスト（M-Portの「テスト」を利用）により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	小川浩之・板橋拓己・青野利彦	国際政治史—主権国家体系のあゆみ（新版）	学生独自購入	9784641151260	有斐閣	

参考文献	佐々木雄太『国際政治史—世界戦争の時代から21世紀へ』（名古屋大学出版会、2011年）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。
備考(管理者用)	(旧：国際政治史) 02～19E・SS・SW・B・L・J生読替

講義コード	15E4320000
講義名称	スピリチュアルケアB <秋>
科目英文名	Spiritual Care B
代表ナンバリングコード	SOCW2540
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
齋藤 かおる

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	<ul style="list-style-type: none"> ●能は、650年以上の歴史を持ち、ユネスコ無形文化遺産に指定されている、現存最古の継続的に営まれ続けてきている舞台芸術です。 ●そのように時代を越えて継続的に営まれ続けてきているのは、能が【魂の配慮】として機能する力を備えているからだと考えられます。 ●本講義は、能の個々の曲（演目）の考察を通して、そのような能の力の具体像を探り、そのような能の力の可能性を見定めてゆきます。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"> ●能が提示する思考の方向性を把握し、その可能性（西欧的スピリチュアルケア概念の補完となる可能性）を理解しましょう。 ●能の知見を手がかりに、人間の三次元性（時間性・空間性・精神性）をめぐる思索を深めましょう。 ●国内外の様々な伝統文化にも、関心を広げましょう。

講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ●狭義のスピリチュアルケア概念が孕む西欧的思考の傾向性と、その諸問題について、概説します。 ●能には西欧的思考とは異なる【魂の配慮】の方向性を見出せることと、その意義について、概説します。
第2回	●この世の無常 ―― 大原御幸
第3回	●弱さと恥じらい ―― 芦刈
第4回	●大人たちの過ち ―― 谷行
第5回	●退治するもの・されるもの ―― 紅葉狩
第6回	●老いと良心 ―― 山姥
第7回	●老いと情愛 ―― 恋重荷
第8回	●思いの齟齬 ―― 鉄輪
第9回	●信義と矜持 ―― 自然居士
第10回	●良識と矜持 ―― 草紙洗小町
第11回	●絶望と孤独 ―― 俊寛
第12回	●命の繋がり ―― 海士
第13回	●共に生きる喜び ―― 雨月
第14回	●共に生きる不思議 ―― 狸々
第15回	<p>総括と補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【魂の配慮】と能面・能装束

成績評価の方法（コメント）	●成績評価は2回の課題レポートによって行います。
---------------	--------------------------

参考文献	●能楽事典（能楽協会のサイト） https://www.nohgaku.or.jp/encyclopedia
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	<ul style="list-style-type: none"> ●事前学習： 講義で扱う能の曲（演目）の概略等を、事前に調べておきましょう。 ●事後学習： 講義内容を手がかりに知見と思索を深めつつ、国内外の様々な伝統文化についても関心を広げましょう。

キーワード	●キユア ●ケア ●ヒーリング ●リカバリー ●魂の配慮 ●人間存在の三次元性（時間性・空間性・精神性）
備考(管理者用)	(旧：スピリチュアルケア) 02～10生読替

【社会人の方へ】

若干の講義予定の変更はあり得ますので、その旨、ご了解願えますなら幸いです。

講義コード	16D3220000
講義名称	観光ビジネスの理論と実践Ⅱ <秋>
科目英文名	Theory and Practice of Tourism II
代表ナンバリングコード	BUSA2590
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
福田 晴仁

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本講義は「観光ビジネスの理論と実践Ⅱ」の講義内容を受講生が理解していることを前提に進めます。講義の前半では、代表的な観光ビジネスである宿泊業、娯楽・レクリエーション施設について取り上げます。後半では、観光と結びつきの強い交通事業と、近年注目されている新しい観光について取り上げます。なお、視聴覚教材についても講義中に随時利用する予定です。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none">・ 宿泊業、娯楽・レクリエーション施設の現状を理解する。・ 交通事業にとって観光が大きな需要発生要因であることを理解する。・ 新しい観光（資源）について、提案することができるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	宿泊業1
第3回	宿泊業2
第4回	娯楽・レクリエーション施設1
第5回	娯楽・レクリエーション施設2
第6回	娯楽・レクリエーション施設3
第7回	交通事業1
第8回	交通事業2
第9回	交通事業3
第10回	交通事業4
第11回	交通事業5
第12回	交通事業6
第13回	新しい観光1
第14回	新しい観光2
第15回	新しい観光3

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	試験は中間試験50点、期末試験50点とします。なお、授業中は静粛にしてください。授業中に私語を止めない受講生は、発見次第成績を減点します（1回につき10点）。
参考文献	千葉千枝子[2011]『観光ビジネスの新潮流』学芸出版社。 大橋昭一 編著[2013]『現代の観光とブランド』同文館出版。 須田寛[2015a]『産業観光—ものづくりの観光』交通新聞社。 須田寛[2015b]『都市観光 まちの観光』交通新聞社。 谷口知司・福井弘幸 編著[2020]『ひろがる観光のフィールド』晃洋書房。 その他講義中に随時指示します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	（事前学習）講義中に指示した参考書、インターネット・新聞・雑誌等の観光分野に関する記事を熟読し、内容を理解した上で授業に臨むこと。受講生がこれを行なっていることを前提に授業を進めます。 （事後学習）講義終了後は、試験に備えて講義で学んだ内容を復習すること。
キーワード	宿泊業、娯楽・レクリエーション施設、交通事業、新しい観光

講義コード	1781340000
講義名称	言語学概論B <秋>
科目英文名	Introduction to Linguistics B
代表ナンバリングコード	LING2420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
角出 凱紀

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	言語学は、我々人間が普段何気なく使っている言語に潜む規則性や特徴を探究する学問です。この講義は、日本語や英語の具体事例を通して、意味や使用にまつわる言語学の主要概念を身につけることを目指しています。また、日本語教育能力検定試験の問題を実際に手を動かして解いてみることで、知識の定着を図ります。
学習（到達）目標	1. 言語学における主要概念を正しく身につける。 2. 実際に自分で言語現象を分析できるようになる。 3. 言語に潜む何気ない不思議に気づく感性を育む。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業概要・導入
第2回	意味論 (1)：ことばの意味とは
第3回	意味論 (2)：意味関係
第4回	意味論 (3)：メタファー・メトニミー・シネドキー
第5回	意味論 (4)：概念メタファー
第6回	意味論 (5)：語彙アスペクト
第7回	意味論 (6)：文の意味
第8回	小テストと解説
第9回	語用論 (1)：直示
第10回	語用論 (2)：協調の原理
第11回	語用論 (3)：いろいろな含意
第12回	歴史言語学：言語変化
第13回	社会言語学：言語変種
第14回	言語類型論：世界言語から見た日本語
第15回	小テストと解説

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 1993. 『言語学』 第2版. 東京: 東京大学出版. 黒田龍之介. 2004. 『はじめての言語学』 東京: 講談社. 斎藤純男. 2010. 『言語学入門』 東京: 三省堂. 佐久間淳一・加藤重広・町田健. 2004. 『言語学入門』 東京: 研究社. 姫野伴子・小野和子・柳沢絵美. 2015. 『日本語教育学入門』 東京: 研究社. ※授業内でも適宜紹介します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	各回の授業後には必ず復習すること。授業内容の十分な理解には、各自の努力が不可欠です。特に、授業で学んだ概念や方法を用いてことばのデータを自分自身で分析できるかどうか、必ず確認してください。復習によって毎回の授業内容の理解を確かなものにしておくことが、次回の授業の事前学習となります。また、授業で取り上げた現象が日常の言語使用の中でどのように表れているか、日ごろから観察するようにしてください。
その他備考（担当教員用）	初回の授業で概要・受講に際しての注意事項を説明します。受講を希望する学生は必ず出席してください。合理的事由が認められる場合を除き、「聞いていなかった」という事後の申し出は一切受け付けません。
備考(管理者用)	(旧：言語学概論) 02～17生読替

講義コード	1A10150000
講義名称	世界の市民-日本の「食」のローカルとグローバル <秋>
科目英文名	World Citizen-Japan's food system:From local and global perspective
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
室屋 有宏

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	皆さんが毎日食べている食料はどのように生産され手元に届くのだろうか？そこには農業や水産業、食品加工業、食品流通業・小売業など多くの産業が関わっている。また日本の食は「ローカル」と「グローバル」が一体化しながら今日の多様で高度なシステムとなっている。本講義では、日本の食生活を支えるさまざまな産業をフードシステムと捉え、各産業が相互に関連し合い、また内外の資源を取り込み、消費者ニーズに対応しているのかについて考察する。さらに食はたんに経済ビジネスだけでなく、地域、自然環境、安全性など幅広い問題ともつながっていることについて理解を深めてもらいたい。
学習（到達）目標	1. 日本の食と農を支える産業・ビジネスについて知る。 2. 現在の日本の食と農が直面する問題点や課題について学ぶ。 3. 長期的かつグローバルな視点から、望ましい食と農のあり方について自ら考える。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション～私たちの食、日本の食と農はどう変化してきたのか
第2回	日本の食料消費の変化
第3回	低下する日本の食料自給率～農業を持たない日本の食
第4回	100億人～私たちは何を食べるのか？
第5回	食と環境問題～食品ロスを中心に
第6回	食と環境問題～食品ロス問題を中心に
第7回	日本農業の現状（1）多様な農業の姿
第8回	日本農業の現状（2）日本農業を取り巻く課題～誰が農業を担っていくか（中間テスト）
第9回	日本農業の高付加価値化～農業の六次産業化
第10回	生鮮食品の流通～青果物の価格はどのように決まるか
第11回	食品製造業～2極化がみられる産業構造
第12回	外食と中食～外食から中食へ、食の簡便化の流れ
第13回	スーパーマーケット～小売主導フードシステム
第14回	コンビニエンスストア～日本型コンビニの発展と持続可能性
第15回	まとめ～持続的な食と農のあり方（期末テスト）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	

その他	40%
-----	-----

成績評価の方法（コメント）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容についての理解度を図る小テストを授業中に実施する。 2. 中間、学期末試験を実施する 3. レポート課題を課す場合がある。
---------------	--

参考文献	<p>時子山ひろみ・荏開津典夫・中嶋康博「フードシステムの経済学」第5版（医歯薬出版）</p> <p>清水みゆき・高橋正郎「食料経済（第5版）：フードシステムからみた食料問題」（オーム社）</p> <p>大浦裕二・佐藤和憲編著『フードビジネス論～食と農の最前線を学ぶ』（ミネルヴァ書房）</p>
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	食や農、また地域産業について関心を持ち、新聞・ニュース等に日常的に目を通すようにしてください。
備考(管理者用)	(旧：世界市民-日本の「食」のローカルとグローバル) 02～19生読替

講義コード	1P95224460
講義名称	音楽<秋>
科目英文名	Music
代表ナンバリングコード	000GE112
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
内海 由美子

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々なジャンルの音楽に触れることにより、教養としての音楽的知識を深めることができる。 ・「音楽」を実践的、多角的にとらえて、楽しむことができる。
授業概要	ジャンルにとらわれず、さまざまな角度から音楽を考察し、鑑賞することで、自分自身にとっての音楽を考える機会を持つことを基本とする。民族音楽に関しては、その音楽の生まれた地域性や文化との関連を探る。西洋音楽に関しては、音楽史を中心に、時代背景やその時代を代表する作曲家や代表曲を知り、教養として音楽的知識を深める。オーケストラやオペラ、ミュージカルについては、その成り立ちや特徴を知る。また本学の建学精神であるキリスト教の音楽として、聖歌・賛美歌の歌唱も行う。
授業計画	第1回 世界の民族音楽（ケルトの音楽、フランス、イタリア、スイス、スペイン、ポルトガル） 第2回 世界の民族音楽（オーストリア、ドイツ、ハンガリー、北アンデス周辺） 第3回 世界の民族音楽（ブラジル、アメリカ合衆国） 第4回 世界の民族音楽（アフリカ、インドネシア、インド、ハワイ） 第5回 世界の民族音楽（中国、韓国、日本） 第6回 中世・バロック時代の音楽（バッハ・ヘンデル） 第7回 古典派の音楽（モーツァルト・サリエリ） 第8回 古典派の音楽（ベートヴェン・ハイドン） 第9回 ロマン派の音楽（シューベルト、ショパン） 第10回 ロマン派の音楽（リスト、メンデルスゾーン、シューマン） 第11回 ロマン派の音楽（ワーグナー、ブラームス） 第12回 ロマン派の音楽（チャイコフスキー）近代の音楽（ドビュッシー） 第13回 近代の音楽（ドヴォルザーク、ラヴェル）現代の音楽（ガーシュウィン、サティ、ケージ） 第14回 オペラ、オペレッタ、ミュージカル 第15回 ミュージカル鑑賞
授業方法	講義と鑑賞を中心とするが、音楽の本質にふれるため、歌うなどの実技演習も行う。毎回授業の最後に、その日の内容に関するレポート（感想を含む）の提出を課す。
アクティブラーニングの視点	身近にあふれている様々な音楽について、積極的に調べ、自分自身がどのような音楽に魅力を感じるか、また自分にとって音楽とはどのような存在がを知る。
授業外学習	授業内で紹介する音楽について鑑賞する。
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内でプリントを配布するなど適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度40%、レポート課題60%で総合的に評価する。
既修条件	なし

講義コード	1051270002
講義名称	人権教育論A 02<秋>
科目英文名	The study in education for human rights A
代表ナンバリングコード	0EDU2420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名	オフィスアワー	メールアドレス	研究室
◎ 大北 規句雄	授業前後	kikuo@mse.biglobe.ne.jp	兼任講師控室

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①	実務経験のある教員による授業②
		行政職員として人権政策に関わってきた経験のある者が、その経験を活かして今日的な人権諸課題の概要や、問題解決に向けたアプローチ等の取組の紹介などを行う。	まちづくりコンサルティング会社の職員としての経験のある者が、その経験を活かして「地域共生社会」の取組概要やアプローチを紹介する。

講義・演習概要	部落差別撤廃の様々な取り組みや経験を通して差別の歴史や社会的役割を学び、日本における普遍的な人権の概念について検証する。また部落解放運動の中で取り組まれている「まちづくり」等「地域共生社会」を創造する実践についても学び、「人と人が豊かに繋がり、誰もがありのままに生きることが出来る新しい地域社会の再構築」とはどのようなものなのか検証し、教職を目指す学生が、人権問題を単に知識として得ることにとどまらず、当事者の創造的な実践に学び、自ら感じ、行動出来る想像力を養うこともこの授業のねらいとする。
学習（到達）目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排除・忌避意識の社会的・歴史的背景を説明することができる。 2. 様々な人権課題や差別問題の歴史的経過や、社会性を説明することができる。 3. 差別解消のための様々な努力から学び、被差別当事者の思いをしっかりと受け止め、記述することができる。 4. 上記1～3を踏まえ、自分の意見をしっかりと論理的にまとめ、記述することができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>(1) 講義ガイダンス・オリエンテーション</p> <p>①受講ルールの説明（受講にあたってのルールやマナーの説明） ②授業計画（授業日程や全15講の内容説明） ③評価基準の説明（単位取得について、評価方法の説明）</p> <p>(2) ワークショップ「人権はいま・・・」 授業に入るリードとして、現代社会における様々な人権概要についてクイズ形式で学ぶ</p>
第2回	<p>人権概論（Ⅰ） 「鬼と呼ばれた人、狐にされた人」 ①日本文化に現れる「隠し」の思想、②「穢れ」意識と差別の固定化への変遷の検証、③「暮らし」に根付く文化や伝統の意味</p>
第3回	<p>人権概論（Ⅱ） 「排除・忌避の背景を検証する」 ①なぜ福祉は一部の「可哀想な人」の問題になったのか、②ジェントリ・フィケーションとは何か、③都市の持つ「排除・忌避」の機能</p>
第4回	<p>部落問題論（Ⅰ） 「部落差別とはなにか」 ①「差別」とは何か、②部落差別の歴史的起源と水平社創立以前の部落差別の検証。</p>
第5回	<p>部落問題論（Ⅱ） 「水平社とはなにか（水平社宣言を読む）」 ①水平社結成の歴史背景、②水平社創立が意味するもの、③戦前の部落解放運動、④当事者運動の意味</p>
第6回	<p>部落問題論（Ⅲ） 「戦後民主主義と部落解放運動」 ①オールロマンス闘争と行政責任論の登場、②部落解放運動の光と陰、③地域共生社会実現への挑戦</p>
第7回	<p>部落問題論（Ⅳ） 「部落問題にかかわる諸理論の展開と論点」 これまでの部落解放運動から生まれてきた様々な差別解消のための論点を整理する。</p>

第8回	部落問題論（Ⅴ） 「社会課題に挑戦する部落解放運動」 ①被差別部落の今日の実態と差別解消の様々なアプローチ、②部落解放運動を支える社会的ネットワークの拡がりを検証する
第9回	同和教育論（Ⅰ） 「同和教育の歴史と実態から見えるもの」 ①同和教育の歴史と創り上げてきた実践、③今日的な人権教育の拡がり実践の検証
第10回	同和教育論（Ⅱ） 「意識化とは何か（文字を奪い返す取り組みから見えるもの）」 ①教科書無償競争、②識字教室の営み、②奨学金競争、③進路保障の取り組み等、を通じて教育とは何かを問い直す。
第11回	地域共生論（Ⅰ） 「部落解放への展望を語るⅠ（地域共生社会と部落差別）」 ①セツルメントと同和地区隣保館、②部落の実践と国が目指す地域共生社会、③ソーシャルキャピタルとは何か
第12回	地域共生論（Ⅱ） 「部落解放への展望を語るⅡ（被差別部落が目指した人権のまちづくり）」 ①部落のまちづくりをめぐる4つのチャンス、②各地で取り組まれる「人権のまちづくり」へのチャレンジ
第13回	地域共生論（Ⅲ） 「国が目指す地域共生社会の意味とは」 ①2000年福祉の基礎構造改革の意味、②2018年社会福祉法の改正と「地域共生社会」の創造、③地域共生社会を実現するためには
第14回	地域共生論（Ⅳ） 「人権の新しい概念の創造に向けて」 ①グローバル概念とは何か、②拡がる人権の概念、③グローバルコンパクトとSDGs
第15回	課題設定のテストおよびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	35%
レポート	65%
その他	

成績評価の方法（コメント）	①最終試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題出題する。授業での内容やオリジナリティなど自身の意見が論理的に述べられているかを重点に評価する。 ②毎回授業のふりかえりとして、授業内容が理解されているかを判断するための小レポートを実施する。 ③欠席が全授業の3分の1を超えると単位を認められないことがある。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大北規句雄	隣保館「まちづくりの拠点として」	大学オンライン販売	978-4-7592-1029-3	解放出版社	
2.		大阪の部落解放運動「100年の歴史と展望」	大学オンライン販売	978-4-7592-4233-1	解放出版社	
3.						授業時に「レジュメ」と参考資料を配布します。

参考文献	「改訂：戦後同和教育の歴史」部落解放研究所編 解放出版社
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	事前学習：前回授業終了時に次回講義の課題と「キーワード」を指示するので、事前に調べておくこと（推定目安時間 1 時間） 事後学習：ミニレポート（推定目安時間 1 時間）
その他備考（担当教員用）	この授業は特定のテキストを使用しない。必要に応じて毎回レジュメを配布する。 この授業は「人権教育論B」と通して履修することが望ましい。
キーワード	差別、人権、偏見、排除、忌避、部落、感染症、地域経営、ソーシャルインクルージョン、ダイバーシティ、ノーマライゼーション、ジェントリフィケーション、地域共生社会、まちづくり、SDGs
備考(管理者用)	(旧：同和教育論) 02～07生読替☆(旧：人権教育論) 08～17生読替

講義コード	14D6210000
講義名称	アメリカ経済論Ⅰ <秋>
科目英文名	Survey of The American EconomyⅠ
代表ナンバリングコード	ECON2690
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
中本 悟

授業形態	講義	その他 成績評価の方法欄を確認すること
------	----	------------------------

講義・演習概要	<p>アメリカは第2次大戦後、その圧倒的な軍事・政治・経済力を基盤にIMF.GATT体制に代表される国際経済秩序を主導した。アメリカはこの国際経済秩序を利用しながら、その経済的利益を最大限に追求してきた。このような国を覇権国という。本講義は、このような覇権国アメリカの国内経済と対外経済関係を統一的に捉え、アメリカ経済の歴史的変遷を経済実態、政策思潮、政策展開の相互関連のなかで論じる。政治経済学的かつ歴史的なアプローチにより、「歴史としての現代」(Present as a History)を講じる。</p> <p>1930年代の大不況のなかで成立したニューディール体制は、戦後、寡占企業と組織率の高い労働組合、そしてケインズ主義的なマクロ経済政策を行う政府とが、トライアングル体制を組んで、高生産性、高賃金、高消費を実現する体制であり、外国とは隔絶した経済力と軍事力の基盤となった。</p> <p>だが、すでに1970年代には企業の多国籍企業化によって、資本蓄積の軸足を外国にも延ばし、また労働組合の組織率は低下し、政府の有効需要創出政策はスタグフレーションという困難な問題に達していた。かくして上のようなトライアングル構造は崩れる。1980年代以降、アメリカの新自由主義(Washington Consensusとも称される)によるグローバリズムが世界経済を席卷した。この「アメリカン・グローバリズム」は、グローバルかつリージョナルに展開された。</p> <p>しかし、2008年の「リーマン・ショック」に端を発する世界的な金融・経済危機のなかで、「アメリカン・グローバリズム」に対する批判が高まっている。その批判をアメリカ第一主義(America first)という自国優先主義で汲み取ったのが、Donald Trump 政権であった。Biden政権は、従来の新自由主義的な経済政策からの転換を図り、分裂するアメリカ社会の再構築にどう取り組むのか、これが現代アメリカ経済の焦点である。</p> <p>アメリカ経済論Ⅰでは、主としてアメリカの国内経済を対象として、上記視角により、その発展と変容とを分析・解説する。また、今年度は独占の問題を集中的に論じる。現代の独占は、グローバリゼーションの進展、反トラスト法運用の変化、プラットフォーム企業の台頭といった要因で、形成され、様々な社会経済問題を引き起こしている。この独占の問題を論じる。</p>
学習(到達)目標	<p>以下の諸問題について、理解を深めることを目標とする。</p> <p>①ニューディール体制の構成と変遷 ②アメリカの産業構造の変化と金融・サービス経済化 ③戦後アメリカの経済政策史町の変化―供給重視の経済学 (SSE)の台頭と新自由主義 ④アメリカにおける金融化と新たな金融寡頭制 ⑤アメリカにおける中間所得層の低落と所得格差の拡大 ⑥GAFA型独占と民主主義</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	1920年代の繁栄と1929年株価大暴落⇒レジュメ参照。現代アメリカの経済構造の成立。大量生産と大量消費。フォーディズムとテラーリズム。消費者信用と耐久消費財の普及。
第2回	1930年代のGreat depressionとRoosevelt政権によるNew Deal政策の展開、資本主義の危機をどう乗り越えたのか?ナチズムとの違い。ニューディールの意義と限界。⇒レジュメ参照。
第3回	New Dealの金融規制と1980年代以降の金融自由化⇒レジュメ参照。
第4回	金融の自由化と巨大複合金融機関の形成⇒レジュメ参照。
第5回	ウォール・ストリートによるワシントン政治の支配⇒レジュメ参照。
第6回	金融システムとアメリカのコーポレート・ガバナンス、Stockholder capitalismレジュメの展開⇒レジュメ参照。
第7回	戦後ケインズ主義の展開から1970年代のスタグフレーションへー反ケインズ主義の台頭⇒レジュメ参照。
第8回	1980年代のレーガン政権の登場とReaganomics⇒レジュメ参照。
第9回	1990年代末のクリントン政権とITバブルから2000年代の住宅バブルへ⇒レジュメ参照。
第10回	所得格差の拡大とAmerican dreamの消失⇒レジュメ参照。

第11回	現代アメリカにおける新しい独占のひろがり（テキスト 序章）
第12回	ビッグテックー新しいビジネスモデル（テキスト第1章）
第13回	軍需産業と軍産複合体（テキスト 第4章）
第14回	小売業における独占（テキスト、第5章）
第15回	Amazonと主反トラスト政策（テキスト 第12章）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<p>成績評価の60%は期末試験による。 40%は、講義後に時折書いてもらうコメントカードによる。</p> <p>テキストは、「アメリカ経済論」Ⅰおよび「アメリカ経済論」Ⅱともに同じテキストを共通して利用します。</p>
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大橋陽・中本悟編	現代アメリカ経済論ー新しい独占のひろがりー	大学オンライン販売	978-4-535-54031-6	日本評論社	

参考文献	授業のなかで指示する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	書いてもらったコメントは、すべて事前に目を通し、重要な質問に関しては、次回の講義の冒頭で回答します。
備考(管理者用)	(旧：アメリカ経済論) 02～10生読替 (E・CBCC・L・文学部生のみ)

講義コード	1536200000
講義名称	社会学特講-日本人の悩みの変遷 <秋>
科目英文名	Topics in Social Studies-Changes in the Problems With Life-Course in Japan
代表ナンバリングコード	OSOC1430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
池田 知加

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この講義は、社会学的な観点から新聞や雑誌に掲載された人生相談コラムを資料としながら、一般の人たちが日々の生活の中で、どのような問題に悩み、また、その問題に対してどのような解決や対処方法を考えてきたかについてみていきます。そうした個人が抱える悩みや問題は、裏返せば、一人ひとりにとって「幸せ」の内実を映し出すものでもあります。そのため、本講義では個人的な悩みとその向こうにある幸福の内実とそれらの変化を同時にみていくことになります。そして、その悩みの変化から、戦後日本社会の社会意識の動向や社会のあり方を考察していきます。
学習（到達）目標	「人生相談」といった質的資料を分析するための方法をまずは理解したうえで、社会学的な観点から分析することができる。人の悩みや、悩みへの解決策というのは、個別的なものでありながら、時代の価値観や社会のあり方を大いに反映していることを理解し、説明することができる。つまり、個別的な事柄から、普遍的な何かをとりだして試みること、そしてそれを各自がフィードバックして、自分にあてはめたりしながら、社会のあり方へと思考を広げて、「私」の問題を「社会」のあり方や問題とつなげていくような思考ができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション:講義内容の概要
第2回	資料への視点1:人生相談に悩みを打ち明ける
第3回	資料への視点2:社会意識の変化をみてとる
第4回	若者の悩み1:人生目標の変化
第5回	若者の悩み2:「個性尊重」の教育への転換
第6回	若者の悩み3:「個性尊重」の教育の問題
第7回	子どもの悩み:教室の中の対人関係
第8回	親子間の悩み1:結婚しない「子ども」について
第9回	親子間の悩み2:自立しない「子ども」について
第10回	男性の悩み1:悩みの言葉を奪われた男性
第11回	男性の悩み2:男性にとっての「仕事」
第12回	女性の悩みの変遷1:女性にとっての「家庭」
第13回	女性の悩みの変遷2:「家庭」と「愛情」の意味変容
第14回	重い男性の経済負担・女性の働き方
第15回	講義の総まとめと確認テスト

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	成績は確認テストと日常課題で評価します。試験は授業の内容を理解しているかを問います。日常課題として、小テストやコメントペーパー（40%）を実施します。
参考文献	池田知加『人生相談「ニッポン人の悩み」 幸せはどこにある?』光文社新書 4334032968
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	事前学習として、配布レジュメを読んで、不明ななどをピックアップしておく（2時間） 事後学習として、講義で提示する課題（コメントペーパーや小テスト）に取り組み、授業内容の理解を深める（2時間）
キーワード	人生相談 質的データ 社会意識

【社会人の方へ】

課題の提出にMicrosoftのTeamsやGoogle Classroomを利用することがあります。

講義コード	15E5610002
講義名称	障害者スポーツ論A 02<秋>
科目英文名	Sport Theory of the Persons with Disabilities A
代表ナンバリングコード	SOCW1520
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
植田 里美

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①
		障がい者スポーツセンター勤務

講義・演習概要	・障がいのある人がスポーツをすることの意義や目的、障がい者スポーツの現状と課題について学ぶと共に、障がいや障がい者スポーツに関する知識を学ぶ。映像などを活用し理解を深めたり、実際の指導法を実技を交えて講義することもある。
学習（到達）目標	障がいや障がい者スポーツについての基本的知識を理解し、障がいのある人のスポーツ支援ができるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス、障がいおよび障がい者スポーツについて ①授業に関する概要の説明 ②障がいおよび障がい者スポーツについての導入
第2回	障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツの歴史と動向
第3回	障がいの概念と障がい者の状況 障がい者スポーツに関する諸施策
第4回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅰ ①身体障がい（肢体不自由①）
第5回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅱ ①身体障がい（肢体不自由②）
第6回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅲ ①身体障がい（視覚障がい）
第7回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅳ ①身体障がい（聴覚・音声言語障がい、内部障がい）
第8回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅴ ①知的障がい、発達障がい
第9回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅵ ①精神障がい
第10回	障がい者との交流（実技または講義） ①レポート
第11回	障がい者スポーツ大会 ①パラリンピック ②全国障害者スポーツ大会
第12回	障がい者スポーツ推進の取り組み ①地域での取り組み ②障がい者スポーツ指導者制度 スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質

第13回	障がいに応じたスポーツの工夫 ①レポート
第14回	コミュニケーションスキルの基礎
第15回	まとめ及び試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	20%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<ul style="list-style-type: none"> ・第15回目にテストを実施します。（教室内で定期試験を実施できない場合は、M-Port上で行います） ・レポートは2回実施します。期限内に提出すること。 ・「その他」は、毎授業に出す課題の提出および授業中の積極的な参加等で評価します。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	(公財) 日本パラスポーツ協会	障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）	大学オンライン販売	9784324112502	ぎょうせい	

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	新聞やテレビなどの障がい児・者スポーツに関する話題に目を通したり、障がい児・者の大会やイベントのボランティアを行うことで、より学びを深めることができます。
備考(管理者用)	(旧：障害者スポーツ論) 02～10生読替☆S生のみ履修可能

講義コード	1610550000
講義名称	経営学のためのデータ分析 <秋>
科目英文名	Practical Data Driven Management Science
代表ナンバリングコード	INFS2300
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
岳 理恵

講義	アクティブラーニング	パソコン実習
授業形態	実務経験のある教員による授業① IEを取り入れたビジネスデータ分析を目的とする産学連携プロジェクト経験を有する教員がこの科目を担当する。	

講義・演習概要	本講義は、ケーススタディを通して、ビジネス現場の意思決定支援に必要なデータ分析のプレゼンテーション力を身に付けることを目的とする。講義では、ビジネス運営の経済性や効率性の分析に着目し、種々の応用事例を紹介しながら解説する。また、データ分析のアプリケーションを複数利用することで、ビジネスデータ分析の楽しさを体験し理解する。
学習（到達）目標	ビジネスデータを題材として、データ分析のプロシージャを理解し、データ分析手法を体系的に理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	データと情報
第3回	データ分析のプロシージャ
第4回	分析ツールのイントロダクション
第5回	分析ツールの環境設定
第6回	データ可視化
第7回	コスト計算
第8回	コスト予測（1回目小テスト）
第9回	インフレと価格変更
第10回	投資選択
第11回	生産スケジューリング
第12回	人員スケジューリング
第13回	リスク分析
第14回	利益予測（2回目小テスト）
第15回	授業統括(最終レポート)

成績評価の方法（コメント）	課題提出（40%）、小テスト・レポート（60%）を総合して学習到達度の観点から評価する。ただし、最終レポートを提出されなければ、失格となり、成績判断対象外となりますので、ご注意ください。
---------------	---

参考文献	講義レジュメをM-Portにて配布する。
------	----------------------

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)	授業予定内容を確認するには、M-Port ⇒ 「クラスプロフィール」 ⇒ 「経営学特講-経営学のためのデータ分析」 ⇒ 「コース学習」 ⇒ 「_回目」の順にアクセスしましょう。「_回目」のすぐ下になる「アジェンダ」と書いているメモ書きは、予定授業内容の目次となりますので、漏れなく学習するために、毎回の学習をスタートする前に、必ずご確認ください。
その他備考 (担当教員用)	次回の学習内容について、その都度予告する。 授業進捗状況に応じて、内容を変更することがある。
備考 (管理者用)	(旧：経営学特講-経営学のためのデータ分析) 14～24B生読替

講義コード	1750330000
講義名称	比較文学B <秋>
科目英文名	Comparative Literature B
代表ナンバリングコード	CULT2470
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
岩男 久仁子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。
学習（到達）目標	イソップ伝(イソップの生涯の物語)」を中心に、講義を進めていく。 2000年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション どういう視点で行う講義なのか、評価の方法など解説。
第2回	①イソップ寓話の挿絵 解説
第3回	②イソップ寓話の挿絵 解説
第4回	③イソップ寓話の挿絵 解説
第5回	①喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話
第6回	②喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話
第7回	③喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話
第8回	①古代ギリシアの女性像
第9回	②古代ギリシアの女性像
第10回	①河島敬藏とイソップ寓話
第11回	②河島敬藏とイソップ寓話
第12回	①自由の問題
第13回	②自由の問題
第14回	③自由の問題
第15回	テストおよびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	33%
レポート	33%
その他	34%

	レポート33%→こちらが指定するテーマでレポートを必ず提出。未提出の場合は、単位認定しません。 レポートは、提出すれば「合格」ではありません。厳しい条件をクリアしたレポートのみ、レポートの内容を評価します。
--	--

成績評価の方法（コメント）	<p>試験33%→講義の総まとめとして秋学期の終わりに行います。試験を受けない場合は、単位認定しません。</p> <p>その他34%→講義中に課す小課題についてのコメント(皆さんの意見・感想等)を11回以上提出すること。それ以下であれば、単位認定しません。</p>
---------------	--

参考文献	<p>『インソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円 『インソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円</p>
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	<p>詳細は講義中に指示するが、理解を深めるために、「インソップ寓話集」「インソップの生涯の物語」を読む。</p> <p>「インソップ寓話集」は数多くあるが、手に入るもので良い。</p> <p>「インソップの生涯の物語」は講義で配布する。</p>
備考(管理者用)	<p>(旧：比較文学) 02～17生読替</p>

【社会人の方へ】

授業資料は全てM-Portでの配布、毎回のコメントもM-Portでの提出となります。
学生に、試験・レポートの書き方などの説明のため、講義内容以外の解説に時間を要することがありますので、ご了承ください。

講義コード	17N3290000
講義名称	比較文化研究-近現代の日本と朝鮮半島B <秋>
科目英文名	Study of Comparative Cultures -Modern and Contemporary History of Japan-Korea Relations B
代表ナンバリングコード	CULT2460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
西村 直登

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	<p>戦争と植民地支配の歴史をめぐって、日本と朝鮮半島のあいだでは、「過去」の歴史をどのように克服していくのかをめぐる論争が「現在」もなお続いている。いわゆる「歴史認識問題」といわれるような論争は、政治やナショナリズム、記憶と結びつきながら複雑化し、新聞やテレビ、インターネットを含むメディアによっても増幅されている。そのような「過去」をめぐる対立や葛藤、そして交流の歴史は、単に国家間のみならず、日本と朝鮮半島の人びとの「現在」の課題であり続けている。</p> <p>そこで本講義では、戦後における日本と朝鮮半島とのあいだの基本的な歴史を概観する。そして、日本と朝鮮半島を単に「比較」するのではなく、たがいの「関係」性を重視し、その関係のなかで生じたさまざまな人びとの対立・葛藤・交流などの意味を歴史的に考えたい。その際、視聴覚資料（パワーポイント・映像・写真・史料など）を積極的に用いて、授業内容に対する理解を深め、想像力を高めるような工夫を行う。</p>
学習（到達）目標	<p>朝鮮半島の歴史・社会・文化について基本的な知識を習得する。</p> <p>近現代の日朝・日韓関係について想像力を働かせながら、歴史的に考えることができるようになる。</p> <p>国際的な諸問題に対して、主体的に物事を考え、相互理解ができるようになる。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	「8.15」：「敗戦」と「解放」
第3回	朝鮮半島の分断
第4回	戦後における在日朝鮮人① もうひとつの「解放」と「分断」
第5回	朝鮮戦争と日本
第6回	日韓会談：日韓国交正常化と植民地支配問題
第7回	韓国民主化運動
第8回	ポスト冷戦時代① 1990年代以降の日朝・日韓関係
第9回	ポスト冷戦時代② もうひとつの「戦後」：植民地支配責任・戦争責任を／から考える
第10回	歴史認識と相互理解① 日本軍「慰安婦」問題
第11回	歴史認識と相互理解② 朝鮮人強制動員被害者（「徴用工」）問題
第12回	戦後における在日朝鮮人② 在日朝鮮人の「国籍」
第13回	戦後における在日朝鮮人③ 外国人学校と民族教育
第14回	現在の日朝・日韓関係① ヘイトスピーチとレイシズム
第15回	現在の日朝・日韓関係② ヘイトクライムとレイシズム

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
----	----

レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<p>レポート：本授業の内容についての理解を問う期末レポートを作成・提出する。</p> <p>その他：毎回、授業終了後に、授業内容に関するコメントペーパーを作成・提出する。</p> <p>※出席率が70%未満の場合、成績評価の対象としない。</p>
---------------	--

参考文献	<p>『日韓交流の歴史：先史から現代まで』（明石書店、2007年）</p> <p>『在日朝鮮人ってどんなひと？』（平凡社、2012年）</p> <p>『在日朝鮮人：歴史と現在』（岩波新書、2015年）</p> <p>『在日コリアンの歴史を歩く：未来世代のためのガイドブック』（彩流社、2017年）</p> <p>『だれが日韓「対立」をつくったのか：徴用工、「慰安婦」、そしてメディア』（大月書店、2019年）</p> <p>『調べ・考え・歩く 日韓交流の歴史』（明石書店、2020年）</p> <p>『日韓の歴史をたどる：支配と抑圧、朝鮮蔑視観の実相』（新日本出版社、2021年）</p> <p>『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』（大月書店、2021年）</p> <p>『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』（大月書店、2023年）</p>
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	<p>毎回授業で配布するレジュメや参考資料、授業で紹介した参考文献を読んだり調べたりしておくこと。</p> <p>日々、日本と朝鮮半島に関する新聞記事やニュースに関心を持って、読んだり見たりしておくこと。</p>
その他備考（担当教員用）	<p>春・秋学期に開講する「比較文化研究－近現代の日本と朝鮮半島A・B」（戦前・戦後編）をそれぞれ受講することが望ましい。</p>
キーワード	<p>日本、朝鮮、韓国、在日朝鮮人、在日コリアン、歴史、社会、文化、戦争、植民地支配</p>
備考(管理者用)	<p>(旧：比較文化研究－近現代の日本と朝鮮半島) 02～10E・06～10CBCC・02～17L生読替</p>

講義コード	1C30020000
講義名称	教養教育特別講義-映像を通して東南アジアの現在を知る <秋>
科目英文名	Special Topic in Liberal Arts – Understanding Southeast Asia through Films
代表ナンバリングコード	LBAT1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
森田 良成

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	多様な映像資料を通して、東南アジアの文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、それぞれの地域における人々の生活の多様性と共通性について考える。あわせて、それらの話題と、日本で暮らすわれわれの現在とのつながりについて考える。扱う事例はインドネシアが中心となるが、他の国々についても随時取り上げる。
学習（到達）目標	東南アジアについての基礎的な知識を習得する。東南アジアに関する情報に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	「映像を通して東南アジアの現在を知る」とは、例えばどういうことか(1)
第3回	「映像を通して東南アジアの現在を知る」とは、例えばどういうことか(2)
第4回	東南アジアとASEANの基礎知識(1)
第5回	東南アジアとASEANの基礎知識(2)
第6回	東南アジアとASEANの基礎知識(3)
第7回	映画に表れる異文化へのまなざし(1)
第8回	映画に表れる異文化へのまなざし(2)
第9回	映画に表れる異文化へのまなざし(3)
第10回	ドキュメンタリーが描く歴史と記憶(1)
第11回	ドキュメンタリーが描く歴史と記憶(2)
第12回	ドキュメンタリーが描く歴史と記憶(3)
第13回	国民の想像と創造(1)
第14回	国民の想像と創造(2)
第15回	国民の想像と創造像(3) + まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法 (コメント)	<p>[その他40%] 平常点を評価するために、到達目標に対応する小レポートを複数回実施する。論述の内容、すなわち「授業内容を理解したうえで自分の考えを論理的に記述できているかどうか」を評価する（提出回数だけでは評価せず、記述内容に応じて採点をする）。</p> <p>[レポート60%] 1000字程度を予定。評価基準について、授業内で詳しく説明する。</p>
---------------------------	--

参考文献	授業において指示する。
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間)	講義中に紹介する資料を見る・読むこと。 課題に積極的に取り組むこと。
備考(管理者用)	(旧：共通教養特別講義－映像を通して東南アジアの現在を知る) 02～19生読替

講義コード	1N05070000
講義名称	社会保障法B <秋>
科目英文名	Social Security Law B
代表ナンバリングコード	0LAW3470
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
楠本 敏之

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	社会保障法Aで年金、医療保障、社会手当を取り扱いましたが、その継続として、労働保険（労災補償・雇用保険）、社会福祉、介護保険、公的扶助（生活保護）という社会保障法上の重要な個別分野についてより深くわかりやすく解説します。その上で、社会保障法上の今日的な課題・問題についても検討していきます。
学習（到達）目標	国民の生活にきわめて密着した分野である社会保障法について、その重要な基本的事項を正確に理解することを目標とします。より具体的には、各社会保障法の発展過程、法体系及び基本原理についての正確な理解に基づいて、個別の法制度についての基本的知識を習得できるようにします。最終的には、少子化・高齢化、格差社会、貧困といった現代日本の社会的諸問題に法的視点からの確に判断できるようになることを目指します。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス～講義の進め方・方針など（社会保障法Aの取扱事項のまとめを含む）
第2回	労働保険（1）－総論など
第3回	労働保険（2）－労働者災害補償保険法など
第4回	労働保険（3）－雇用保険法など
第5回	社会福祉（1）－総論①社会福祉の意義、社会福祉法制の沿革及び体系など
第6回	社会福祉（2）－総論②社会福祉法の具体的仕組みなど
第7回	社会福祉（3）－障害者福祉
第8回	社会福祉（4）－児童福祉
第9回	社会福祉（5）－介護保険法①など
第10回	社会福祉（6）－介護保険法②
第11回	社会福祉（7）－介護保険法③及びその他の福祉など
第12回	公的扶助（1）－公的扶助の意義とその制度的変遷・基本原理など
第13回	公的扶助（2）－生活保護法の具体的仕組み
第14回	社会保障法の残りの問題そして社会保障に関する現代的問題など
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

**成績評価の方法
(コメント)**

備考 学期末の2回のレポート（各50%）のみで評価します。ただ、毎回の授業に関し定められた形式でM-Portを通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	加藤智章ほか	社会保障法（有斐閣アルマ・第8版）	大学オンライン販売	9784641222113	有斐閣	社会保障法Aと共通

参考文献	岩村正彦編『社会保障判例百選（第6版）』（有斐閣）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	社会保障法は、体系的に理解することが特に重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例等の資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、各講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。
キーワード	社会保障、社会福祉、労働保険
備考(管理者用)	(旧：法学特講－社会保障法B) 02～19生読替

講義コード	14D6220000
講義名称	アメリカ経済論Ⅱ <秋>
科目英文名	Survey of The American Economy II
代表ナンバリングコード	ECON2695
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
中本 悟

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	<p>アメリカは第2次大戦後、その圧倒的な軍事・政治・経済力を基盤にIMF.GATT体制に代表される国際経済秩序を主導した。アメリカはこの国際経済秩序を利用しながら、そこから最大限の経済的利益を追求してきた。本講義は、このような覇権国アメリカの国内経済と対外経済関係を統一的に捉え、アメリカ経済の歴史の変遷を経済実態、政策思潮、政策展開の相互関連のなかで論じる。政治経済学的かつ歴史的なアプローチにより、「歴史としての現代」(Present as a History)を講じる。</p> <p>アメリカ経済論Ⅱでは、アメリカ経済の対外経済関係を論じるが、今年度はグローバル・バリューチェーン (GVC),移民問題、国際金融覇権とドル体制の問題、米中経済摩擦、を重点的に講じる。</p>
学習(到達)目標	<p>以下の諸問題について、理解を深めることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アメリカ経済の対外関係の変遷 ②アメリカの対外経済政策の変遷 ③アメリカ多国籍企業の行動とその政治問題化 ④アメリカン・グローバリズム特質と問題点 ⑤米中経済摩擦の構造と日本の外交 ⑥GVC,移民、ドル体制の現状とゆくえ

講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>グローバリゼーション序説 グローバリゼーション論争 グローバリゼーションは世界をflatにするのか、格差を拡大するのか？ 市場と国家 グローバリゼーションの歴史—19世紀グローバリゼーションと現代のグローバリゼーションの異同</p>
第2回	<p>自由貿易論の基本 比較生産費説の論理と現実 「埋め込まれたリベラリズム」とAmerican hegemony</p>
第3回	<p>GATT Round変遷の歴史—自由貿易体制を主導したアメリカ アメリカ・ングローバリズム</p>
第4回	<p>国際貿易の新潮流 サービス貿易とGATS 知的財産権取引とTRIPs</p>
第5回	<p>グローバリズムの主体として多国籍企業 グローバルビジネスとしての多国籍企業 多国籍企業と国家主権</p>
第6回	<p>多国籍企業と途上国の経済開発—途上国の開発、投資と貿易の連結性、 輸入代替工業化と輸出指向工業化、輸出加工区の変遷</p>
第7回	<p>多国籍企業と本国経済 アメリカにおける多国籍企業の政治問題化の2類型</p>
第8回	<p>アメリカの地域主義 (American regionalism) の展開とNAFTA、 GATTにおけるFTAの位置付け NAFTA論争</p>
第9回	<p>国際分業の再編とグローバル・バリューチェーン (テキスト 第6章)</p>

第10回	ドル体制と金融覇権（テキスト 第7章）
第11回	産業界が生んだ「非正規移民」（テキスト 第8章）
第12回	高度人材の育成とグローバル頭脳獲得競争（テキスト 第9章）
第13回	米中関係の現段階 国際秩序形成者としての中国の台頭とそのインパクト
第14回	米中経済摩擦と日本の課題 米中経済摩擦と日米経済摩擦との異同
第15回	総括—Pax Americanaのゆくえ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<p>成績評価の60%は期末試験。テキストは参考文献として持ち込み可。 時として、講義終了時にコメントカードを書いてもらうが、それを40%分の評価とする。</p> <p>なおコメントカードは、すべて目を通し、重要な質問やコメントに対しては、次回の授業冒頭で回答する。</p>
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大橋陽・中本悟編	現代アメリカ経済論—新しい独占のひろがり—	大学オンライン販売	978-4-535-54031-6	日本評論社	

参考文献	授業中に指示する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	次回授業で取り上げるテーマに関連する資料・史料、データをアップロードしておくので、事前に検討しておくこと。
備考(管理者用)	(旧：アメリカ経済論) 02～10生読替 (E・CBCC・L・文学部生のみ)

講義コード	1530630003
講義名称	マス・コミュニケーション論 03<秋>
科目英文名	Mass Communication
代表ナンバリングコード	COMM1400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
趙 相宇

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	<p>私たちは新聞、ラジオ、映画、テレビ、インターネットといったコミュニケーション・ツールが当たり前な時代を生きています。絶えずに大量の情報に露出され続け、大勢の人々とつながる（つながろうとする）現代の感覚は私たちにあまりにも馴染み深く、ゆえに、その感覚が摩訶不思議に見える時代があったことを忘れがちです。</p> <p>本講義では、思考の基礎的な枠組みとなる言語学やメディア学の知見をまず概観します。その上でマス・メディアの誕生と変遷を考察し、メディアと社会の関係を主に「国民国家」の側面から考えていきます。大勢の人々と大量の情報を同時的につなぐコミュニケーション・ツールがいかなる歴史的な背景から生まれたのか。また、そうしたツールが、「我々」と「彼ら」という境界をいかに生み出してきたのか。あるいは、崩してきたのか。これらの問いを一つ一つ丁寧に理論および歴史から紐解いて行くことによって、私たちのメディアを用いたコミュニケーションの原点を省察します。</p>
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none">・メディアと現代史の観点から自他の社会を多角的に捉えるための専門的な知識を習得できる。・関連の専門知識を私たちの実際のマス・メディアを用いたコミュニケーションの考察に応用できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	言語と認識
第3回	マス・コミュニケーション効果論－強力効果説
第4回	マス・コミュニケーション効果論－限定効果説と新たな強力効果説
第5回	メディアはメッセージである
第6回	理論編の総括
第7回	近代とはどういう時代？－宗教革命、産業革命、そして、印刷革命
第8回	市民社会とコーヒーハウス
第9回	国家と国民とは？－「想像の共同体」という発明
第10回	聴覚とメディア－最先端としての「ラヂオ」
第11回	明確な記憶と曖昧な歴史－8月15日の神話
第12回	近代的視覚の誕生とマス・メディア
第13回	家にテレビがやってきた！
第14回	越境するメディア文化－境界の再生産か、溶解か
第15回	歴史編の総括

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
----	--

レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	毎回の授業後に200字程度のコメントペーパーを提出していただきます。出席点とコメントペーパーの点数50%、最終レポート（2000字程度）の点数50%で成績算出を行います。レポートは大変厳しく採点しますので、可能な限り授業に出席されることをお勧めします。
---------------	--

参考文献	佐藤卓己（2018）『現代メディア史 新版』岩波書店。 吉見俊哉（2016）『メディア文化論：メディアを学ぶ人のための15話 改訂版』有斐閣アルマ。 ※その他、みなさんの反応をみながら、紹介した方が良い文献は授業中に適宜示します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	授業中には近現代史の基礎的な用語が繰り返し登場します。簡略に説明はしますが、うまく理解できなかった部分については各自用語を調べてみてください。授業後に質問してもいいです。近現代史の基礎的な用語に加え、メディア学および社会学の基礎的な用語も多く使われる予定ですが、こちらについても、自分の言葉で説明できるようにしっかり予習と復習を行ってください。なお、皆さんの興味関心に応じて授業内容が多少変更される場合があります。
キーワード	メディア、コミュニケーション、市民、大衆、公共圏
備考(管理者用)	(旧：マス・コミュニケーション論Ⅰ) 02～18生読替

講義コード	16D1040000
講義名称	情報管理 <秋>
科目英文名	Information Management
代表ナンバリングコード	INFS2440
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
山口 智浩

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	ビッグデータ、AIなどの新しい技術によって、今、我々の社会は大きな変化の時にあり、従来は困難だと思われていた様々な分野でAIの実用化が進んでいます。AI(人工知能)とは、人間が持つ知性や知能を人工的に実現する技術で、ビッグデータの中に潜む規則性を発見し、利用する手法の裏方でもあります。この科目では、AIが我々の生活や社会でどう使われていくのか、どう変えていくのかを論じます。
学習(到達)目標	(1) 最近のAI、IT/ビッグデータ分析等の概要とAI技術、特に学習型AIのしくみや長所・短所を理解し、説明できる。 (2) 社会のしくみを変えるAIの活用事例、人とのコミュニケーション技術のビジネス活用を理解し、説明できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス：経営・経済学科の学生向けに興味を持って頂ける内容を中心に(教科書の章立てに沿って)講義を進めます。各回では、まず最近のAI/IT分野の技術の実例、しくみ、特徴などを説明し、次に社会に普及した場合の可能性(光と影)、現状(到達点と課題)について講義します。 第1回: AIとは何か(AI入門) ・アンドロイド研究の最前線-到達点と課題- ・ロボットは東大に入れるか? 東大ロボプロジェクト -大学入試問題を(科目別に)学習するAI研究の到達点- ・6章 AIは人間を超えるのか? -人とAIとの望ましい未来とは?- より 6-3 AI は仕事を奪うのか? 6-5 AI が人の能力を高める-拡張AIプロジェクト-
第2回	第2回 生成AIとは? ・生成AIとは -注目を集める背景や問題点- ・ChatGPTとAI技術の歴史、ChatGPTのしくみ、生成AIでできること
第3回	AIの役立て方 -応用、実力、限界を知る- ・AIとは何か?-AI研究・定義の移り変わり- ・日常生活の課題をAIで解く- 人xAIのデザイン力 - ・ビッグデータ分析 -「AIに聞いてみた どうすんのよ!? ニッポン 第4回 超未婚社会」より-
第4回	1章前半 AIの最新動向(活用と技術) Q. 最近のAIブーム (を支えるAI技術) はどのように生まれ、発展してきたのか? 1-1 (pp.10-15) AIの進化と利用の拡大 1-2 (pp.16-20) AIブームの変遷 -自己対戦型学習-
第5回	1章後半 ディープラーニングの誕生 -AIブームの歴史- Q. AI冬の時代の役割は何か? 1章前半 AIの最新動向 (1-3~1-4節) ニューラルネット ~顔認証 2章 AIの基礎知識(その1) 2-1節 機械学習(前半)
第6回	2章 人間の脳を模倣する! AIの基礎知識 2-1後半: 機械学習で用いる統計手法 強化学習 -複雑な行動の強化- (自律走行レーシングカー、犬のクリッカートレーニング) 2-2前半: ディープラーニング(その1) -NNの構造、内部表現、ブラックボックス問題-

第7回	2章 AIの基礎知識(その3) Q. どうやってインパクトのある、人の役に立つ仕事ができるか？ 2-2後半: ディープラーニング(その2) -NN多層化による問題点とそれらの解決- 2-4前半: DLによる画像認識(その1) -応用1: (画像内の)物体検出-
第8回	2章 AIの基礎知識(その4) 2-4後半: 画像認識(その2) -動画画像認識, 顔認証, 生体認証- ・暮らしが激変！？ 急速に広がる“顔認証” ・顔認証技術の便利さと危うさ, 規制の動き, 到達点と課題
第9回	2章 AIの基礎知識(その5) 2-4 画像認識(その3) ・画像にまつわる新たな犯罪事例, 個人情報公開するリスク, 特定屋- ・クラウド型・写真管理サービスの進歩 2-3 音声認識 -キカイと人とのコミュニケーション技術の動向(その1)-
第10回	2章 AIの基礎知識(その6) キカイと人とのコミュニケーション技術の動向(その2) 2-5 自然言語処理(ことば) -機械翻訳の到達点と課題, センチメント(感情)分析, 記述問題の自動採点- 2-6 ナチュラルインタフェース(ことば以外!) -GUI, iPhone: タッチパネルとジェスチャ操作- 2-7 チャットボット -チューリングテスト: 相手はAIか人か? ことばのやりとりだけで区別できますか?-
第11回	3章 社会のしくみを変える! AIの活用事例集 人とのコミュニケーション技術のビジネス活用(第1回) ・DLなしの対話分析 -概要・しくみ・モデル- ・ジョブズのスピーチ分析 -Connecting The Dots- (若き日のスティーブ・ジョブズxカリグラフィー = Mac)
第12回	3章 人とのコミュニケーション技術のビジネス活用 (第2回 オフィス自動化1) 3-2 EC・小売1 -AIがリアル世界のサービスを変える- ・ECとは? 英国/ロンドンのオンラインスーパー事情 ・RPA: パソコン事務作業の自動化 -(英語圏の, 国内の)事務作業はどこまで自動化できるか?-
第13回	3章 人とのコミュニケーション技術のビジネス活用 (第3回 オフィス自動化2) -21世紀は, ITやAIがオフィスを自動化する時代- 3-4 金融 -金融 x AI の現状から仕事の近未来を語る- 3-2 EC・小売2 -VRショッピング: 国内外の現状と課題-
第14回	3章 人とのコミュニケーション技術のビジネス活用(第4回 オフィス自動化3) 3-2 EC・小売3 ・AR技術のショッピング応用 ・デジタルマーケティング(AI x MA) -AIがもたらすマーケティングの進化とは? -
第15回	5章 AIの原理と研究の最前線, 5-3 GAN: 画像などのフェイクデータを生成する技術 ・概要, 学習のしくみ, 主な応用例, GANの光と影(様々な応用, 可能性と課題) 6章 AIの発展と未来 -人とAIとの付き合い方について考える -

成績評価の方法 (割合)

「成績評価の方法 (コメント)」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法 (コメント)	<p>レポート: 2つの学習(到達)目標に対応する課題(論述)を2回, 授業中に実施(30% x2回, 持ち込み可)する。 講義内容を理解した上で, 以下の3点に重点を置いて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 興味を持った内容を表すキーワードを複数挙げられるか。 2. 最も興味をもった内容を各自の言葉で説明しているか? (講義内容以外の身近な例や話題などと関連づけているか) 3. 最も興味を持った内容に対して, 自身の考えを根拠を示して論理的に述べているか。 <p>その他: 出席課題(10行程度の小レポート)を計8回程度実施(40%)する。目的は, 講義内容に関する問いを元に能動的に講義を受けることである。</p>
----------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	古明地 正俊, 長谷 佳明	図解 人工知能大全	大学オンライン販売	ISBN-10: 479739594X	SBクリエイティブ	2018年

参考文献	「図解入門 最新人工知能がよ〜くわかる本」, 秀和システム, 神崎 洋治著, 2016年
事前および事後学習の指示 (事前)	原則として, 講義はシラバスに沿って教科書の順に進めます, 講義の内容を十分に理解するために, 事前にシラバスを参照して, 毎回の講義の教科書の範囲をざっと下読みしておく, 講義スライドの内容が理解しやすくなるでしょう。

学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間)	事後学習では、講義内容のうち興味や疑問を持った内容について、スライドで紹介した参考文献に進まると理解が深まります。レポート課題の準備として、興味をもったキーワード、内容や疑問点、講義での最も重要な点は何かをノートに書き出しておくのがお勧めです。
キーワード	人工知能, AI, ビッグデータ分析, しくみ, 活用事例, キカイと人とのコミュニケーション技術, オフィス自動化
備考(管理者用)	(旧: 情報検索論) 02~07生読替☆ (旧: 情報検索論B) 08~12生読替☆E・B生のみ履修可能

講義コード	1P95222930
講義名称	現代政治と経済<秋>
科目英文名	Contemporary Politics and Economy
代表ナンバリングコード	000GE101
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 5 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
吉井 武史

到達目標	社会人基礎力としての「政治」および「経済」に関する基礎的教養を習得する。
授業概要	初頭・中等教育学習課程における「政治」「経済」に関する内容を抽出し、実践的教養を習得することを目的とする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 法と憲法 2 大日本帝国憲法 3 日本国憲法の制定 4 内閣 5 国会 6 裁判所 7 地方自治 8 防衛問題 9 日本の領土問題 10 アメリカ合衆国の政治 11 ヨーロッパ主要国の政治 12 国際連合 13 EU 14 経済学の歴史 15 第二次世界大戦後の国際経済体制 期末試験
授業方法	講義と演習
アクティブラーニングの視点	毎時間、インターネットを利用して課題の解答を見出す演習を実施する。
授業外学習	新聞等を通じて、現在進行形の政治・経済の状況を把握する事を心がける必要がある。
教科書	授業中に随時資料を配布、もしくはウェブクラスにアップする。
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
既修条件	なし